

## ご挨拶

第74回日本公衆衛生学会総会学会長

青 柳 潔

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科公衆衛生学分野 教授

平成27年（2015年）11月4日（水）から同月6日（金）にかけて、長崎市において第74回日本公衆衛生学会総会を開催させていただくことになりました。日本公衆衛生学会の会員の皆様に、学会長として一言ご挨拶申し上げます。

本学会総会のメインテーマは「ライフステージに合わせた健康づくりを目指して」とさせて頂きました。少子高齢化が進むわが国にとって、子供から高齢者までのすべての世代における健康増進を進めていくことが重要です。母子保健，学校保健，壮年期からの生活習慣病対策，高齢者における介護制度等，ライフステージを考慮した公衆衛生学の実践が必要とされています。壮年期死亡の減少，健康寿命の延伸と生活の質の向上を目的とし，21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21）が平成12年度に開始されました。平成25年度からは健康日本21（第2次）が進められ，あらゆる世代の健やかな暮らしを支える良好な社会環境を構築することにより，健康格差の縮小を目指すこととなりました。また，高齢者の健康に関して，運動器の障害によって，移動機能の低下をきたした状態であるロコモティブシンドロームの認知向上が目標となりました。乳幼児期から高齢期まで，それぞれのライフステージにおいて，心身機能の維持・向上につなげる対策について議論して頂きたいと考えております。

安政4（1857）年11月12日，オランダ軍医ポンペ・ファン・メールデルフォールトが，幕府医官松本良順をはじめとする12名に対し，オランダ語による体系的医学講義を開始しました。この医学部の起源である医学伝習所の設置が長崎大学の創基です。それ故，長崎は西洋医学教育発祥の地であります。健康保護の意味で広く使われている「衛生」の語をわが国で使うようにし，わが国近代の医療・衛生，及び福祉体制を確立した長与専斎もポンペの下，この医学伝習所で学びました。

「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」と日本の近代化を支えた産業遺産「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」の2つが世界遺産登録候補となっています。また，雲仙，西海とふたつの国立公園があります。さらに長崎市の夜景は平成24年世界新三大夜景に選ばれました。長崎はかつて日本で唯一海外に開かれ，様々な人や文化が導入されました。和（日本），華（中国），蘭（オランダ，ポルトガルなどの西洋）との交流の中で，長崎独自の和・華・蘭（わからん）が絶妙にブレンドした個性的な料理が育まれてきました。長崎の食も楽しんで頂きたいと思います。

多くの会員の皆様が長崎にお越し下さり，本学会総会に積極的にご参加くださいますようお願い申し上げます。

## 第74回日本公衆衛生学会総会（長崎）ご案内 〈第一報〉

### 1. 会 期

2015年11月4日（水）～6日（金）

### 2. 会 場

長崎ブリックホール（長崎市茂里町2-38） 他

### 3. 名誉学会長・名誉顧問・学会長・副学会長・顧問・監事

名誉学会長：中村 法道（長崎県知事）

名 誉 顧 問：田上 富久（長崎市長）

学 会 長：青柳 潔（長崎大学院大学医歯薬学総合研究科公衆衛生学教授）

副 学 会 長：蔦本 恭（長崎県医師会長）

伊東 博隆（長崎県福祉保健部長）

草野 孝昭（長崎市市民局市民健康部長）

顧 問：片峰 茂（長崎大学学長）

監 事：林 尚之（長崎市市民局市民健康部地域保健課長）

### 4. メインテーマ

ライフステージに合わせた健康づくりを目指して

### 5. プログラム（予定）

特別講演：草野仁 氏

学会長講演，メインシンポジウム，シンポジウム，奨励賞受賞講演，分科会，ランチョンセミナー，自由集会，各種展示 など

### 6. 総会ホームページ

<http://www.c-linkage.co.jp/jsph74/>

### 7. 事務局

実行委員会事務局：長崎県福祉保健部

学術部会事務局：長崎大学大学院医歯薬学総合研究科公衆衛生学

運営事務局：株式会社コンベンションリンケージ内

〒102-0075 東京都千代田区三番町2 三番町KSビル

TEL：03-3263-8688 / FAX：03-3263-8693 / E-mail：jsph74@c-linkage.co.jp

### 8. 各種申込期間

公開シンポジウム登録 2015年3月1日（日）～3月31日（火）

今回、シンポジウムは公募とし、先着順といたします。詳細はホームページ（上記）をご確認下さい。

一般演題登録，自由集会申込 2015年4月1日（水）～5月29日（金）

抄録集事前申込（参加登録） 2015年4月1日（水）～8月28日（金）

### 9. 今後の情報

日本公衆衛生学会誌第62巻第2号および総会ホームページ（上記）に順次掲載